



2023 年度 教育開発・学習支援センター一年報

目 次

2023 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター活動報告 -----	1
2023 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告	
教育サポートユニット -----	4
学習サポートユニット -----	9
データ活用推進ユニット -----	11
巻末資料 -----	13

2023 年度 教育開発・学習支援センター活動報告

教育開発支援機構

教育開発・学習支援センター長

1 事業執行体制

教育開発支援機構長	: 山本兼由 (生命科学部教授)
センター長	: 酒井理 (キャリアデザイン学部教授)
教育サポートユニット	
リーダー	: 秋野喜彦 (情報科学部教授)
サブリーダー	: 大木良子 (経営学部教授)・末武康弘 (現代福祉学部教授)
学習サポートユニット	
リーダー	: 高橋美穂子 (経営学部教授)
サブリーダー	: 砂田充 (経済学部教授)・竹内晶子 (国際文化学部教授)
データ活用推進ユニット	
リーダー	: 菅幹雄 (経済学部教授)
サブリーダー	: 北浦康嗣 (社会学部教授)・久井英輔 (キャリアデザイン学部教授)
事務局	: 学務部教育支援課

2 センター活動報告

(1) 教育開発支援機構の他センターとの連携：教育開発支援機構企画委員会への参加

2023 年度に開催された 10 回の教育開発支援機構企画委員会に出席し、LFC の活動を他センターと情報共有することにつとめた。企画プロジェクトで推進した「生成 AI ツールに関する基本的考え方」の内容と発信については、ILAC、KLAC に対して迅速に情報提供することができた。

(2) センター活動の学内 PR と広報効果の測定：HP の充実/SNS の活用/年度末の広報活動分析

センターの活動を広く周知するため Web 掲示板、HP、SNS を積極的に活用した。FD 教員セミナーなど教員に向けた情報発信に関しては Web 掲示板を活用して積極的な参加を促した。「生成 AI ツールに関する基本的考え方」については、全学方針をセンターHP に掲載し大学としての考えを外部に発信する一方、教員向け方針と学生向け方針については Web 掲示板にて発信した。LFC の活動を学内に PR する良い機会となった。広報効果としては、2023 年度の HP のアクセス数は 70,241 (2024 年 3 月 11 日時点)、SNS のフォロワー数は X (旧 Twitter) が 39、Facebook が 604 となった。

また、2022 年度教育開発・学習支援センター年報としてまとめ発行した。

(3) 全学プロジェクトへの貢献：副学長プロジェクト「DX イニシアティブ」へのコミット

DX イニシアティブの一つの成果である「Halo」の活用に関しては、各教員が自らの授業における「学生による授業改善アンケート」及び「GPCA の推移」を確認できる状況になった。学生においても「学生による授業改善アンケート」を Hoppii 上でシームレスに回答できるようになっている。LFC が展開する事業において「Halo」を積極的に活用することができている。

3 各ユニット活動報告

(1) 教育サポートユニット

- a 授業リフレクションのための学生による授業参観 [巻末資料 1]
実施授業数：春学期 9 授業（教員 8 名）、秋学期 7 授業（教員 6 名）
- b (新規)学生 FD スタッフ活用による FD プロジェクト
2023 年 10 月 20 日（金）（学生 7 名）との意見交換実施
- c FD 教員セミナー 3 回実施（7/31、12/8、3/4） [巻末資料 2～4]
- d Newsletter の発行 7 回
- e 学部等教授会への FD 研修 4 学部実施
社会学部、経済学部、現代福祉学部、キャリアデザイン学部
- f 教員による授業相互参観 311 件
- g FD/SD ワークショップ [巻末資料 5]
2023 年 9 月 1 日（金）12:30～16:30
- h GPA 活用の検討（継続）
- i シラバスの点検と改善
- j 学習支援システム運営委員会の運営 7 回

(2) 学習サポートユニット

- a 『学習支援ハンドブック』の内容検討 [巻末資料 6]
- b 学習ステーションの運営
新入生サポートプログラムの実施
学生企画型プログラムの支援
- c 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミ 14 回の講座提供） [巻末資料 7]
- d (新規)「L ステ出張プログラム」の実施
- e プレ FD プログラムの実施（今年度修了者 2 名） [巻末資料 8]
- f ピアネット運営委員会の運営（ピアネット学生スタッフ合同研修会 12/2 実施）
- g 学習環境改善検討委員会の運営（12/22）

(3) データ活用推進ユニット

- a 『2022 年度授業改善アンケート全学集計結果報告書』の作成 [巻末資料 9]
- b 『2022 年度「授業形態に関するアンケート」全学集計結果報告書』の作成 [巻末資料 10]
- c (新規)オンライン授業に関する教員対象調査の実施（6/1～6/18） [巻末資料 11]

4 企画プロジェクト実施報告

- (新規)「生成 AI ツールに関する基本的考え方」の策定と公開（6/22） [巻末資料 12]

5 学内会議

(1) 教育開発支援機構企画委員会

10 回（4/13、5/18、6/15、7/13、9/21、10/19、11/16、12/21、1/25、3/14）

(2) ユニット・リーダー会議

10 回（4/11、5/9、6/6、7/4、9/5、10/3、11/7、12/5、1/16、3/12）

6 所属学会・参加団体・外部対応

(1) 全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPFF：Japan Private Universities FD Coalition Forum）

（37 大学加盟）：幹事校

幹事会・総会・シンポジウム（6/17）

幹事校・会員校ミーティング・懇談会（1/25）

(2) 関東圏 FD 連絡会（青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学）

連絡会（7/20）

(3) 大学 e ラーニング協議会（UeLA）

UeLA 総会・フォーラム 2023（2/28、29）

7 その他

大学コンソーシアム京都「第29回FDフォーラム」(2/23、24)

以上

2023年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告

<教育サポートユニット>

I 2023年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

秋野喜彦（情報科学部）*
伊藤真紀（スポーツ健康学部）
大木良子（経営学部）**
小堀真知子（グローバル教養学部）
末武康弘（現代福祉学部）**
竹島康博（文学部）
西村涼（リカレント・通信教育センター事務局通信教育部事務課）
根橋巧（学務部教育支援課）
山本洋輔（学務部教育支援課システム担当主任）（2023年6月1日～）
[事務局]鍋田純子（学務部教育支援課教育支援担当主任）

2 活動目的

授業レベル、学部・研究科レベル、全学レベルそれぞれでの教育支援を行う。

3 活動計画

(1) 教員への教育支援

- a 授業リフレクションのための学生による授業参観
 - (a) 教員の応募が少ない状況への対応（とくに専任）
 - (b) 兼任講師への周知とニーズに応える工夫をする
- b 学生FDスタッフ活用によるFDプロジェクト
学生の学びを向上させるために、学生からの意見を入手したい。
具体的な方法・内容を検討後、今年度1回実施（実施日程は未定）
- c FD 教員セミナー
 - (a) 3回実施（10月・12月・3月）（変更の可能性あり）
「ベストティーチャーによる授業運営の工夫」は好評のため vol.3 を実施予定（3月）
 - (b) 昨年度テーマ
学習支援システム機能「テスト／アンケート」の活用・利用方法について（10月）
LGBTQ等学生への配慮－教室の現場は何ができるのか－（12月）
学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.2（3月）
- d 「Newsletter」の発行
年間5回（以上）発行予定（6月、7月、10月、12月、3月）
 - (a) 3回はセミナーに関する情報発信
 - (b) 授業リフレクションのための学生による授業参観関係で1回
 - (c) その他（Turnitin、学習支援システム関連テーマ等）で1回

(2) 学部・研究科の教育支援

- a 学部等教授会へのFD研修
春学期、秋学期を通じて募集を行ない、年間2学部実施を目指す。
研修テーマは、昨年を引き続き以下とする。
 - (a) FD活動
 - (b) 「Turnitin」「学習支援システム」のインストラクション等
- b 教員による授業相互参観の促進

- (3) 全学レベルでの教育支援
- a FD/SD ワークショップ（ミーティング）
 - (a) 1回実施予定（9月）
 - (b) 昨年度テーマ：大学職員のリスキリング（9月）

 - b GPA 活用の検討（継続）
 - (a) オンライン化による水準変化とガイドラインの検討
 - (b) 学習成果としての GPA 活用方法（学生サイド）
 - (c) 教育成果としての GPCA 活用方法（教員サイド）

 - c シラバスの点検と改善

 - d 学習支援システム運営委員会の運営（年2回開催予定）
システムリプレイスに向けた意見集約を行う。

以上

II 2023 年度活動実績（報告）

1 教員への教育支援

(1) 授業リフレクションのための学生による授業参観

[巻末資料 1]

- 2023 年 5 月 23 日（土）に事前研修を実施した。参加学生 51 名であった。
- 授業参観は以下の通りで実施された。

実施期間： 春学期 2023 年 6 月 9 日（金）～2023 年 7 月 20 日（木）

秋学期 2023 年 10 月 16 日（月）～2023 年 12 月 22 日（金）

参観登録学生：45 名（2023 年度新規参観登録学生 43 名）

参観学生： 春学期 24 名、秋学期 18 名（延べ数）

実施授業数：春学期 9 授業（教員 8 名）、秋学期 7 授業（教員 6 名）

(2) 学生 FD スタッフ活用による FD プロジェクト

2023 年 10 月 20 日 13:40～14:50 にオンラインにて実施した。参加学生 7 名に対して、以下の 3 つの内容について学生の意見を聴取した。

- a ピアネットをはじめとする大学での授業以外での学び（正課外学習）について
- b 大学における学習環境について
- c 授業内容の理解や学習意欲の向上につながったと感じる教員の授業の工夫等について

(3) FD 教員セミナー

以下の日程・内容にて 3 回実施した。

① 2023 年度第 1 回 FD 教員セミナー（Zoom によるオンライン実施）

[巻末資料 2]

日時： 2023 年 7 月 31 日（月）18:00～19:30

テーマ： 学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.3

参加者数： 84 名

② 2023 年度第 2 回 FD 教員セミナー（Zoom によるオンライン実施）

[巻末資料 3]

日時： 2023 年 12 月 8 日（金）18:00～19:30

テーマ： 大学教育における著作権について

参加者数： 70 名（内、博士後期課程学生 12 名）

③ 2023 年度第 3 回 FD 教員セミナー（Zoom によるオンライン実施）

[巻末資料 4]

日時： 2024 年 3 月 4 日（月）18:00～19:30

テーマ： 生成 AI と高等教育機関におけるその活用法～教育とその評価を中心に～

参加者数： 100 名

(4) 「Newsletter」の発行

名称： LF センター News Letter

発行： 2023 年度 1 号 2023 年 9 月 5 日

2023 年度第 1 回 FD 教員セミナー開催報告

2023 年度 2 号 2023 年 10 月 3 日

第 25 回 FD ワークショップ開催報告

2023 年度 3 号 2023 年 11 月 2 日

プレ FD プログラム概要、修了者インタビュー実施報告

2023 年度 4 号 2023 年 11 月 7 日

学生 FD スタッフの主な活動内容、「学生 FD プロジェクト」インタビュー実施報告

2023 年度 5 号 2024 年 1 月 16 日

2023 年度第 2 回 FD 教員セミナー開催報告

2023 年度 6 号 2024 年 3 月 19 日

学習ステーション学外連携プログラム実施報告

2023 年度 7 号 2024 年 3 月 19 日

2023 年度第 3 回 FD 教員セミナー開催報告

以上、計 7 号発行

2 学部・研究科への教育支援

(1) 学部等教授会への FD 研修

① 社会学部教授会における研修

実施日時： 2023 年 6 月 20 日（火）

テーマ： FD 活動について
剽窃チェックソフト-Turnitin の利用方法-
学習支援システムの活用について
オンデマンドツールについて
参加者数： 57 名

② 経済学部教授会における研修
実施日時： 2023 年 7 月 14 日（金）
テーマ： FD 活動について
生成 AI ツールの注意点について
参加者数： 46 名

③ 現代福祉学部教授会における研修
実施日時： 2024 年 1 月 24 日（水）
テーマ： FD 活動について
生成 AI ツールの注意点について
参加者数： 22 名

④ キャリアデザイン学部教授会における研修
実施日時： 2024 年 2 月 26 日（月）
テーマ： 生成 AI について
参加者数： 23 名

(*) 来年度からは、学部教授会向け FD 研修を動画にて提供する方向性を検討

(2) 教員による授業相互参観の促進
実施期間： 学部により異なる
実施授業数： 311 件

3 全学レベルでの教育支援

(1) FD/SD ワークショップ（ミーティング）

第 25 回 FD ワークショップ（オンライン開催）

[巻末資料 5]

開催日時： 2023 年 9 月 1 日（金）12:30～16:30
テーマ： 高等教育現場における生成 AI の利用について考える
参加者数： 72 名

(2) GPA 活用の検討（継続）

- ・ 全学および各学部の GPA に関して現状および経年変化についてまとめ、状況把握・再確認した。
- ・ 他大学の状況についての調査結果、および本学各学部における基準についてまとめ、現状を把握した。
- ・ 2016 年度学部長会議（2017 年 3 月 23 日開催）で承認された申し合わせを継続し、各学部等の運用・成績評価の定義等について、教員への毎年周知徹底をお願いできればと考えている。

(3) シラバスの点検と改善

現状のシラバスを基本踏襲するが、「15. その他注意事項」欄に生成 AI の取り扱いに関して必要に応じて適宜記載することとした。また、「14. 学生が準備すべき機器他」欄に記載されていた“*学習支援システムは、原則通信教育部（スクーリング）では使用できません。”の文言が不要であるため削除した。

(4) 学習支援システム運営委員会の運営

学習支援システムのリプレイスに向けた仕様の方向性や選定に関して議論するため以下の会議を実施した。

2023 年 6 月 13 日（火） 第 1 回学習支援システム（lms2025）仕様検討ワーキング
2023 年 8 月 22 日（火） 第 2 回学習支援システム（lms2025）仕様検討ワーキング
2023 年 9 月 5 日（火） 2023 年度第 1 回 学習支援システム運営委員会

2023年12月12日(火) 第3回学習支援システム(lms2025)仕様検討ワーキング
2023年12月18日(月) 2023年度第2回 学習支援システム運営委員会
2024年1月26日(金) 2023年度第3回 学習支援システム運営委員会
2024年3月22日(金) 2023年度第4回 学習支援システム運営委員会

以上

<学習サポートユニット>

I 2023 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

上田和夫（法学部）
工藤伶美（大学院事務部大学院課）
杉戸信彦（人間環境学部）
砂田充（経済学部）**
高橋美穂子（経営学部）*
竹内晶子（国際文化学部）**
廣岡裕吏（生命科学部）
道奥康治（デザイン工学部）
[事務局]五十嵐基（学務部教育支援課）→齊藤光平（学務部教育支援課）（2023年6月1日～）

2 活動目的

学習サポートユニットの主たる活動目的は次のとおりである

- (1) 学生の主体的な学習の支援に関する教育環境・学習環境の研究及び整備を行うこと
- (2) 全学的な教育支援施策、学習支援施策、教育・学習環境整備の企画、提案及び調整を行うこと

3 活動計画

上記目的を達成するために、次の学習支援活動を実施する。

- (1) 主体的学習のハード・ソフト支援
 - a 『学習支援ハンドブック』の内容検討
 - (a) 研究倫理に関するページを追加する
 - (b) 2023年度版の修正を行うとともに、必要な箇所の加筆修正を行い、内容の充実を図る
 - b 学習ステーションの運営
 - (a) 新入生サポート事業を実施する
 - (b) 学生企画型プログラムの支援を行う
- (2) 正課外の学習・教育サポート
 - a 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミの実施）
 - (a) 学習支援ハンドブックの内容と連動した「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供するゼミを提供する
 - (b) 講師をユニット・メンバーに限定せず、学内の教員を対象を広げて募集する
 - b プレFDプログラムの実施
大学教員を目指す博士後期課程に在籍中の大学院生の教育能力向上を目的として、3つの取り組み（L ステゼミへの登壇・授業リフレクションのための学生による授業参観・学部授業参観）を実施する
 - c ピアネット運営委員会の運営
 - (a) ピアネット合同研修会の企画と実施を行う
 - (b) ピアネットコンピテンシーの測定を目的として、Halo を活用した参加学生のデータ蓄積を行う
- (3) 学習環境整備の調整
 - a 学習環境改善検討委員会の運営
対面授業が主流となる状況での学習環境改善のための支援と整備を行う

以上

II 2023年度活動実績（報告）

1 主体的学習のハード・ソフト支援

（1）『学習支援ハンドブック』の内容検討

[巻末資料 6]

学生の研究倫理を醸成する目的で「研究者としての倫理について」のページを追加するとともに、LFセンターが公表した「生成 AI に対する基本的考え方」の一部を追加した。

（2）学習ステーションの運営

新入生サポートプログラム（資料 1_新入生サポート実施報告）を実施した。また、学生企画型プログラム（資料 2_学習ステーション企画一覧）の支援を行った。さらに今年度は、江東区立深川第二中学校の二年生の生徒を対象に、学生スタッフ自身の大学での学びの経験を中心に勉強することのメリット等を伝えつつ、学習面での生徒の疑問や悩みに対して回答を行う「L ステ出張プログラム」を新規で実施した（資料 3_L ステ出張プログラム実施報告）。

2 正課外の学習・教育サポート

（1）正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミの実施）

[巻末資料 7]

L ステゼミに 14 回の講座提供を行った（資料 4_L ステゼミ実施一覧）。講師は、ユニット・メンバー、メンバー以外の教員、プレ FD プログラム参加の博士後期課程学生が務めた。

（2）プレ FD プログラムの実施

[巻末資料 8]

博士後期課程学生を対象としたプレ FD プログラムを実施した。本プログラムは現状、①学部授業を参観できる「授業参観制度」、②プレ教育経験・教育歴を得ることを目的とした「L ステゼミの担当」と③そのフィードバックを得るための「授業リフレクションのための学生による授業参観制度」の取り組みから構成される。今年度はこの 3 つの取り組みのすべてを修了した初めての学生が出たことから、当該学生にインタビューを行い、プログラムの改善点などを確認した。

（3）ピアネット運営委員会の運営

ピアネット学生スタッフ合同研修会を 12 月 2 日に対面で実施した。第一部「ピアネット活動の目的についての概要説明」、第二部「ピアサポートに関するスキルアップ研修」、第三部「各団体間の情報交換」の三部構成で実施した（資料 5_ピアネット学生スタッフ合同研修会実施報告）。

ピアネットコンピテンシーの測定を目的として、Halo を活用した参加学生のデータ蓄積を開始した。

3 学習環境整備の調整

（1）学習環境改善検討委員会の運営

学習環境改善のための支援と整備を行うため、12 月 22 日にオンライン会議を開催し、関連部局との意見交換を行った。Wi-Fi の接続状況や受動喫煙、ボアソナードタワーのエレベーターの混雑などに対して学生から不満の声が寄せられている点を共有した。さらに、特に市ヶ谷キャンパスでは、学生から「就職活動のオンライン面接に適した場所がない」という意見が複数寄せられていることから、個室型学習スペースの確保の必要性を確認した。これらの内容を教育開発・学習支援センターで検討し、教学組織からの要望として、必要に応じて法人組織・学部長会議に上程することとなった。

以上

<データ活用推進ユニット>

I 2023 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

五十嵐基（学務部教育支援課）
彌富仁（理工学部）
大嶋良明（国際文化学部）
北浦康嗣（社会学部）**
菅幹雄（経済学部）*
久井英輔（キャリアデザイン学部）**
松本雄大（総長室大学評価室）
森山祐紀（総長室大学評価室）
[事務局] 齊藤光平（学務部教育支援課）

2 活動目的

各種アンケートの実施によってデータの収集を行い、FD 活動へのフィードバックとなるようデータの分析・活用を行う。

3 活動計画

(1) 学生に対するデータ収集と活用

a 授業改善アンケートの企画・実施と分析

昨年度に実施した「学生による授業改善アンケート」の分析・報告書作成を行う。また、本年度も継続して調査を実施する。

b 授業形態別アンケートの企画・実施と分析

昨年度に実施した「授業形態に関する学生対象調査」の分析・報告書作成を行う。また、本年度も継続して調査を実施する。

(2) 教員（特に兼任）に対するデータの収集

教員を対象としたアンケートを実施し、以下の分析を行う。

a オンライン授業についての意識

b 学習支援システムの活用度

c 授業支援ニーズの把握

(3) 全学レベルでの FD データ活用

GPCA データの時系列、規模別、学部別集計分析を行う。

以上

II 2023年度活動実績（報告）

1 学生に対するデータ収集と活用

(1) 授業改善アンケートの企画・実施と分析

[巻末資料 9]

- a ユニット・メンバーが『2022年度授業改善アンケート全学集計結果報告書』を作成した。
- b 同報告書（学部及び大学院）は第2回データ活用推進ユニット会議（2023年6月29日（木）実施）に報告、承認された。
- c 同報告書（学部及び大学院）は第4回ユニット・リーダー会議（2023年7月4日（火）実施）に報告、承認された。
- d ユニット・リーダー会議承認後、第8回学部長会議（2023年7月20日（木）実施）で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

(2) 授業形態別アンケートの企画・実施と分析

[巻末資料 10]

- a 同アンケート調査は「学生による授業改善アンケート」と同時期に同じシステムで一緒に、全学部生・大学院生（通学課程の科目を履修している通信教育部生を含む）を対象として実施された。
- b 2022年度アンケート調査実施後、教育開発・学習支援センターが作成した『2022年度「授業形態に関するアンケート」全学集計結果報告書』を、第2回データ活用推進ユニット会議（2023年6月29日（木）実施）で検討の上、承認を得た。
- c 同報告書は第4回ユニット・リーダー会議（2023年7月4日（火）実施）で報告、承認された。
- d ユニット・リーダー会議承認後、第8回学部長会議（2023年7月20日（木）実施）で報告した。

2 教員（特に兼任）に対するデータの収集

(1) オンライン授業についての意識

[巻末資料 11]

- a オンライン授業に関する教員対象調査を、2023年度授業担当教員を対象に2023年6月1日（木）～6月18日（日）の期間に実施した。
- b 同調査ではオンライン授業実施の有無、オンライン授業の形態、オンライン授業の良い点・悪い点、オンライン授業についてのご意見を自由記述で回答する質問を設定した。
- c 調査実施後、教育開発・学習支援センターで集計を行い、『2023年度「オンライン授業に関する教員対象調査」集計結果報告書』を、第4回データ活用推進ユニット会議（2024年2月26日（木）実施）で検討の上、承認を得た。
- d 同報告書は第10回ユニット・リーダー会議（2024年3月12日（火）実施）で報告、承認された。
- e ユニット・リーダー会議承認後、第20回学部長会議（2024年3月22日（金）実施）で報告された。

(2) 学習支援システムの活用度

上記の調査では学習支援システムの活用度に関する質問を設定しなかった。

(3) 授業支援ニーズの把握

上記の調査では授業支援ニーズの把握に関する質問を設定しなかった。

3 全学レベルでのFDデータ活用

GPCA データの時系列、規模別、学部別集計分析については、その目的についてユニット内で合意形成ができなかったため実施していない。

以上

3 第2回FD教員セミナー

「大学教育における著作権について」(2023年12月8日)

2023年度第2回FD教員セミナー 

大学教育における著作権について

授業実施にあたって、著作物の扱いについて悩まれることも多いのではないのでしょうか。著作権については関係法令も毎年改正され、また法律上抽象的な表現も多く専門家の意見が分かれる部分もあります。今回のセミナーでは改めて基礎知識を説明の上、著作物が自由に使えるケースや授業目的の公衆送信補償金制度(SARTRAS)で補償金対象となるケースを整理する等、実践的な理解を深めます。また、生成AI利用時の著作権の問題点等も紹介します。質疑応答の時間もありますので是非ご参加ください。

日時	2023年12月8日(金) 18:00~19:30(予定)
開催方法	Zoomによるオンライン開催 ※録画による配信は予定していません。
対象者	法政大学教職員(専任・兼任)・博士後期課程学生
定員	なし
講演者	武田 俊之 (関西学院大学 高等教育推進センター 教育技術主事)
プログラム(予定)	18:00 開会挨拶 18:05 研修 19:10 質疑応答・閉会挨拶

参加申込方法

下記のQRコードから、または下記URLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
(URL: <https://forms.gle/FD9n2A1U31Czmm1L1>)


※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(…@hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報保護法に基づき、本イベント以外の目的で使用いたしません。

申込締切: 2023年12月6日(水)

主催: 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp 


4 第3回FD教員セミナー

「生成AIと高等教育機関におけるそのキーポイント~教育とその評価を中心に~」
(2024年3月4日)

2023年度第3回FD教員セミナー 


生成AIと高等教育機関におけるそのキーポイント ~教育とその評価を中心に~

2024年 3月 4日 日 18:00-19:30

開催方法	Zoomによるオンライン開催 ※録画の事後配信及び事後の当日資料配布は行いません。
対象	本学教職員(専任・兼任) 定員 なし ・博士後期課程学生
講演者	講演者: 深澤 良彰 氏 早稲田大学理工学術院教授 大学ICT推進協議会前会長
参加申込方法	申込締切 2月29日(木) 

下記のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。
URL: <https://forms.gle/mkXnx4EJoE5DxFrd6>

※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス(…@hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報保護法に基づき、本イベント以外の目的で使用いたしません。

主催: 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp 

5 第25回 FD ワークショップ

「高等教育現場における生成 AI の利用について考える／正確な事務手続きをするためには？
～事例から学ぶ～」(2023年9月1日)

法政大学第25回 FDワークショップ

主催：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター／学務部
共催：千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

高等教育現場における生成AIの利用について考える

ChatGPTをはじめとする生成AIが様々な場面で使用されるようになり、高等教育の現場においても利用について様々な議論が巻き起こっている。本学としても「生成AIツールに対する基本的な考え方」を公開し、教職員一人ひとりが「生成AIの特徴や利用するメリット」、「利用するにあたっての課題」を理解していくことが大切。今回のFDワークショップでは、「高等教育現場における生成AIの利用について考える」をテーマとし、適切な利用等を学生に促していけるよう、教育現場における生成AIについて学びます。

日時

2023年9月1日(金) 12:30～16:30

開催方法

Zoomによるオンライン開催(URL等は後日ご案内)

対象

法政大学教職員・千代田区キャンパスコンソ教職員

プログラム

◆(第1部)
FDワークショップ(教職員対象) 12:30～14:50
◆開会挨拶
◆講演：「高等教育現場における生成AIの利用について考える」
12:35～13:30
講演者：南 聡太(情報通信総合研究所 主任研究員)
◆グループ討議：「生成AIの活用方法と課題」
13:30～14:50

◆(第2部)
学務部職員研修会(本学職員対象) 15:00～16:30
◆講演：「正確な事務手続きをするためには？～事例から学ぶ～」
◆挨拶・開会挨拶

◆以下のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。

- ◆学務部専任職員は参加必須ですが、申込手続きも必ず行ってください。
- ◆法政大学職員で学務部専任職員以外の方は、申込前に必ず所属長の許可を得てからお申込みください。
- ◆教員の方は第1部のみ参加可能です。

<https://forms.gle/mA44yFPqo9LhF6VcZ>

申込締切：2023年8月30日(水) 12:00

※個人情報厳重に管理し、本イベント以外の目的では使用いたしません。

お問い合わせ

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター／学務部
TEL：03-3264-4268 E-mail：kyoiku@hosei.ac.jp

6 学習支援ハンドブック(抜粋)



INDEX デジタル版はこちら
<https://hosei-hondana.actlibookone.com/>

- **02 法政大学へようこそ** WELCOME TO HOSEI UNIVERSITY
02 法政大学へようこそ 08 校歌を知ろう！
- **10 大学での学びとは** GETTING STARTED
11 時間割をつくる 13 法政ポータルサイト(Hoppii)について
20 授業受講のルールとマナー 22 学習ポートフォリオのすすめ
24 ノートの取り方 26 メールのマナー 27 ディスカッション
28 生成 AI ツールに対する基本的考え方
30 研究者としての倫理について ー科学コミュニティの一員としてー
- **32 成績評価・授業改善** GRADE AND COURSE EVALUATION
32 成績評価を受ける 36 学生による授業改善アンケート
- **38 レポートの書き方** HOW TO WRITE PAPERS
38 レポートを書く 39 レポート課題を吟味しよう！
40 アイデアのまとめ方 ーレポート執筆の下準備ー
42 レポートの構成 43 論証するには？
44 アカデミックライティングの基礎 ーパラグラフとはー
47 先行研究の適切な引用と区別 49 接続表現を適切に使って論理的に文章を組み立てよう！
50 レポート提出前のチェックポイント 51 レポートの文書術 53 校正記号
54 レポート書式の例 56 英文レポート書式の例 58 キーボードに慣れよう！
- **60 プレゼンテーション技法** PRESENTATION SKILLS
60 プレゼンテーション基礎 ー準備ー 62 プレゼンテーション基礎 ー資料ー
64 プレゼンテーション本番 ー心構えー
- **66 文献や情報の集め方** INFORMATION GATHERING
67 図書館を使いこなそう！
70 インターネットで情報収集 ー信頼できるサイトの見分け方ー
- **74 その他** OTHER TOPICS
74 学生生活支援Q&A
77 あなたも挑戦してみよう！法政大学のコンテスト・奨励制度
- **78 法政大学お宝コレクション** SPECIAL HOSEI UNIVERSITY COLLECTIONS
78 法政大学図書館 80 野上記念法政大学能楽研究所
81 大原社会言語学研究所 82 沖縄文化研究所 83 HOSEI ミュージアム

7 Lステゼミ

<p>学習ステーション</p> <p>ボアソナード・タワー3階ピア・ラーニング・スペース</p> <p>Lステオンラインゼミ</p> <p>Lステゼミとは… 本学の教員が講師となり、単発で行うプチゼミです。語学・教養・専門とテーマは多岐にわたり、学士力として期待される「知識・理解」を深める事を主目的として、気軽に学ぶ機会を提供しています。</p> <p>Emerging Markets: Strategies and Opportunities 新興市場: 課題と戦略</p> <p>内容 ※このLステゼミは英語で行われます</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) なぜ企業はグローバル化するのか。 2) 新興市場の魅力は何ですか？ 3) 新興市場のビジネス戦略 4) BOPビジネス <p>★講師：グローバル教養学部 准教授 Eyo Shiao Jia</p> <p>★日時：6月30日（金）15:00～16:10</p> <p>★場所：Zoom</p> <p>★申込方法</p> <p>QRコードからアクセスの上、必要事項を入力してください。 ※申込者には前日までにZoomのURLをお送りします。</p> <p>申込締切 6/28(水)17:00</p> <p>TEL.03-3264-9072 E-station-jimu@ml.hosei.ac.jp</p> <p>ピアネット 学習ステーション</p>	<p>学習ステーション</p> <p>ボアソナード・タワー3階ピア・ラーニング・スペース</p> <p>Lステゼミ</p> <p>Lステゼミとは…本学の教員が講師となり、単発で行うプチゼミです。語学・教養・専門とテーマは多岐にわたり、学士力として期待される「知識・理解」を深める事を主目的として、気軽に学ぶ機会を提供しています。</p> <p>日本列島で発生する地震 —メカニズムと歴史—</p> <p>日本列島は顕著な変動帯に属しており、地殻変動や火山活動が活発な地域のひとつです。本ゼミでは、2011年東北地方太平洋沖地震・2016年熊本地震など近年に発生した地震のメカニズムや地震の歴史を理解し、地震災害にどのように備えるべきかを考えます。</p> <p>★講師：杉戸 信彦（人間環境学部教授）</p> <p>★日時：11月27日（月）15:00～16:20</p> <p>★場所：Zoom</p> <p>★申込方法</p> <p>QRコードからアクセスの上、必要事項を入力してください。 ※申込者には前日までにZoomのURLをお送りします。</p> <p>申込締切 11/22(水)17:00</p> <p>TEL.03-3264-9072 E-station-jimu@ml.hosei.ac.jp</p> <p>ピアネット 学習ステーション</p>
--	---

8 プレFDプログラム

博士後期課程に在学中の皆様へ

博士後期課程学生向けプレFDのご紹介

概要

プレFDとはこれから大学教員になろうとする大学院生・ポストドクターのための教養能力の向上を目的とした活動（Faculty Development）のことです。

1. **Lステゼミ（学習ステーション実習プログラム）**
 教養能力の向上を図るべく、本学学生が独自に企画を行うショートゼミです。多様なテーマについて、学士力として期待される知識や理解力を深めると同時に、英語に学ぶ機会を学生に提供することを目的として実施しています。
 ※本学学生は特定のスケジュールに基づき、一般の教員と異なる視点から建設的に授業を参観し、授業の進め方をチェック（専門的な内容は除く）し、担当教員に建設的なフィードバックを行います（学生からの評価は行われません。フィードバックの内容を第三者が閲覧することはありません）。
<https://www.net.hosei.ac.jp/station/entry/lesson/outline-english/>

2. **授業リアレクションのための学生による授業参観**
 学生の視点からの意見を取り入れ、授業や教育方法の改善に活かすための制度です。授業改善に関心のある学生を募集し、事前研修を実施します。本学学生は特定のスケジュールに基づき、一般の教員と異なる視点から建設的に授業を参観し、授業の進め方をチェック（専門的な内容は除く）し、担当教員に建設的なフィードバックを行います（学生からの評価は行われません。フィードバックの内容を第三者が閲覧することはありません）。
 ※本学学生による授業参観

3. **学部授業参観**
 大学教員を目指す博士後期課程の学生が、「学生が選ぶベストティーチャー賞」を受賞した教員（院生入り含む）の授業や希望する教員の授業を参観する（許可された場合のみ）ことで、授業参観における立場を身をもって知るための制度です。

詳細

1. **Lステゼミ**

実施方法：Zoomにて実施
 実施時間：70～80分
 実施の流れ：①下記メールアドレス宛にお申し込みください。（1年名）プレFD（Lステゼミ講師）希望
 ②参加日募集、授業を参観し、授業を実施します。
 ③参観学生と事前打ち合わせを実施し、フィードバックを受けたい内容を事前にお伝えください。
 ④資料を準備いただき、当日ゼミを行います。
 ⑤①～④実施後、参観学生からフィードバックを参観します。
 参観日 募集：～2023年6月23日（金）、実施：2023年6月9日（金）～7月20日（木）
 院生日 募集：2023年9月15日（金）～12月1日（金）、実施：2023年10月16日（月）～12月22日（金）
 1回：6,000円

2. **授業リアレクションのための学生による授業参観**

実施の流れ：①上記「1. Lステゼミ」をお申し込みください。
 ②事前研修を受けた学生の中から、参観希望の学生をLステゼミに派遣します。
 ③学生は事前に参観講師と打ち合わせを行ったうえで、Lステゼミを参観します。
 ④ゼミ参観後、学生は受け付けた点を講師にフィードバックします。

【Lステゼミ「授業リアレクション」のための参観による授業参観はセットでご案内いたします！】

3. **学部授業参観**

実施の流れ：①授業参観したい授業を選び、お申し込みください。
 【授業参観可能な授業（ただし、担当教員の許可が必要）】
 ※ポストドクター・実用英語学が担当する授業
 専門科目・教養科目 語学科目の各分野でポストドクターを派出しています。
 詳細はリンクよりご確認ください。 <https://www.net.hosei.ac.jp/station/entry/lesson/outline-english/>
 ※ポストドクター・実用英語学入りの教員、過去の受賞者も参観希望の対象です。
 ※上記以外の授業参観を希望する授業
 ②希望する授業の参観希望を担当教員に確認・日程の調整等を行います。
 参観日 募集：～2023年12月1日（金）
 実施：～2023年10月22日（金）

4. **その他の取り組み**


以下リンクより新任教員研修会（2023/2022年度実施分）において教育開発・学習支援センター長が行った講演動画を公開しています。
<https://www.hosei.ac.jp/hope/online/2023/>
[Hospo!オンラインシステム（統合認証IDの方）よりログイン）> 新任教員研修](https://www.hosei.ac.jp/hope/home/gafajit.aspx)
<https://www.hosei.ac.jp/hope/home/gafajit.aspx>

大学教員を目指すにあたって、教養能力向上を目的に標準化された知識・スキルを対外的に示すため、1～3の制度を利用した列にオープンバッジ（デジタル証明書）を発行しています。オープンバッジについての詳細は一般財団法人オープンバッジ・ネットワークのHPをご確認ください。 <https://www.openbadge.or.jp/about-08/>

1～3お申し込みはこちら <https://forms.gle/9N8obuV7T9a239z>

問い合わせ先：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター（事務局：学部教育支援課） TEL.03-3264-4268 / Mail:kyo@hosei.ac.jp

9 2022 年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書(抜粋)



2022 年度
「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書
2023 年 7 月

学部 P. 1～P. 16
大学院 P. 17～P.29

発行:法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

学部

1. はじめに

2004 年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005 年度より FD 推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに 18 年間実施してきました。アンケートは、2009 年度の前身・前身・期末の実施、教員への非公開と併用した匿名式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014 年度の秋季学期より Web 形式で実施するなど改善を図ってきました。2017 年度からは、アンケート項目を 5 問化する大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

夏季学期末アンケートは、2022 年 6 月 30 日（水）～8 月 8 日（月）の期間に実施しました。4 学期の学部は、夏季学期末アンケートとして、5 月 19 日（木）～6 月 8 日（水）の期間にも実施しました。秋季学期末アンケートは、2022 年 12 月 7 日（水）～2023 年 2 月 7 日（火）の期間にも実施しました。4 学期の学部は、秋季学期末アンケートとして、10 月 26 日（水）～11 月 16 日（水）の期間にも実施しました。

本学は法学部（市谷谷キャンパス）、文学部（市谷谷キャンパス）、経済学部（市谷谷キャンパス）、国際文化学部（市谷谷キャンパス）、人間健康学部（市谷谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（市谷谷キャンパス）、デザイン工学部（市谷谷キャンパス）、グローバル教養学部（市谷谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、現代福祉学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の 15 学部から構成され、さらに同じ学生支援として通信教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）が加わります。

2022 年度のアンケート対象全科目数は 9,755 科目（夏季期 4,866 科目、秋季期 4,889 科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は 8,245 科目（夏季期 4,298 科目、秋季期 3,947 科目）であり、回答率として夏季期 16.6%、秋季期 11.6%の回答率（回答した学生数/回答が想定される全学生数の百分率）を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは専用に年間の集計データを収録しています。

本アンケートの対象は本学学部で国連する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など明確な理由から 2022 年度は 2,077 科目のアンケートを未実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では 376 科目（講義全体の 8%）、演習では 934 科目（演習全体の 38%）、前学では 304 科目（前学全体の 9%）、実教では 168 科目（実教全体の 42%）、実技では 14 科目（実技全体の 5%）であり、卒論では 181 科目（卒論全体の 77%）であり、少人数で行う講義科目やゼミや研究がメインとなる科目で多くあります。これらの未実施科目は、独自のアンケートを行うなどの個別対応が行われています。

本年度アンケートを運営に際しては、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚と存じます。

2. 全学集計結果について

本報告書では、5 段階の選択回答を求めた問 1～問 4 の集計結果とそれぞれの分析、問 3 の回答に対する問 1 と問 2 のクロス集計とそれぞれの分析、問 4 の回答に対する問 1、問 2、問 3 のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

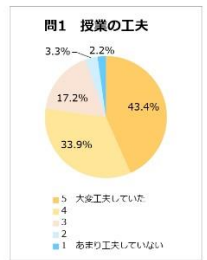
以下では、問 1～問 3 に関する「教員の教養」と問 4 に関する「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見ると授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教養」では理解度を問う問 3 を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問 4 を中心とした分析を行っています。

また、問 1～問 4 の集計結果は学年別、科目種別別、履修選択別、担当教員別、科目教養主修別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の高時低時を見るため、問 1～問 4 の回答平均値と回答学生数の高時変化を示しました。

3. 教員の教養に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問 1 は、授業の工夫に対する学生の受け止めを 5 段階評価として尋ねています。問 1 は「この授業では、積極的な工夫がなされています」とし、それに従って、回答がある程度のイメージをもってもらうために（例えば、態度、授業方法、板書法、スクリーン等の見やすさ、話し方、講師や事務的な学びへの配慮など）(5 段階評価で回答ください)を追加しています。全体の回答割合を見ると、大賛成していた「5」と「4」を合わせた 77.3%の学生が授業の工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた 5.5%の学生は授業の工夫がなかったと評価したことになります。



問 1 授業の工夫

3.3% 2.2%
17.2% 43.4%
33.9%

5 大賛成していた
4
3
2
1 あまり工夫していない


図 1

付表 学部データ：2022 年度全学集計表

問 1. この授業では、積極的な工夫がなされています。例えば、態度、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、講師や事務的な学びへの配慮など。(5 段階評価で回答ください)

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答割合	5 大賛成していた	4	3	2	1 あまり工夫していない
<総計>	8,553	20,225	71.866	31,157	24,328	12,395	2,402	1,584
<学年別>								
1 年	-	9,045	37,796	16,192	12,982	6,599	1,225	798
2 年	-	5,653	20,065	8,615	6,610	3,619	747	474
3 年	-	3,778	10,283	4,533	3,562	1,641	322	225
4 年	-	1,700	3,617	1,753	1,148	523	107	86
その他	-	49	105	64	26	13	1	1
<科目種別別>								
講義（合計）	4,377	-	46,869	19,589	15,977	8,474	1,707	1,122
25 人未満	1,028	-	3,298	1,689	1,077	406	80	46
25-49 人	1,202	-	7,496	3,346	2,419	1,291	262	178
50-99 人	1,116	-	13,705	5,378	4,808	2,637	526	356
100-199 人	621	-	10,288	3,967	3,674	1,983	409	255
200-299 人	195	-	4,671	1,897	1,549	905	197	123
300 人以上	215	-	7,411	3,312	2,450	1,252	233	164
演習	988	-	4,492	2,231	1,411	646	119	85
講義	2,704	-	16,305	7,336	5,488	2,657	495	329
実務	196	-	2,370	996	851	383	54	36
実技	257	-	1,870	967	585	231	25	12
卒論	31	-	60	38	16	4	2	0
<学部別別>								
法学	3,222	-	25,282	10,532	8,710	4,541	880	619
その他	5,331	-	46,584	20,625	15,618	7,854	1,522	965
<担当教員別>								
専任	3,493	-	33,180	14,434	11,341	5,637	1,064	704
兼任	5,060	-	38,686	16,723	12,987	6,758	1,338	880
<科目教養主修別>								
市ヶ谷学部	2,053	-	16,596	7,563	5,411	2,668	610	344
市ヶ谷教養	2,305	-	16,824	8,117	5,618	2,391	413	285
小金井学部	1,147	-	13,220	4,755	4,909	2,736	480	340
小金井教養	553	-	5,365	2,138	1,902	1,013	189	123
多摩学部	2,084	-	17,244	7,313	5,683	3,178	631	439
通信教育	308	-	1,883	882	585	299	66	51
その他	103	-	734	389	220	110	13	2

10 2022年度「授業形態に関するアンケート」全学集計結果報告書(抜粋)



2022年度
「授業形態に関するアンケート」全学集計結果報告書
2023年7月

1. はじめに----- P.1
 2. 回答者の属性----- P.1
 3. 各授業形態に対する満足度----- P.3
 4. おわりに----- P.9
 巻末資料(各集計表)----- P.10

発行:法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

表 2.1b 学年別回答者数及びその構成比(大学院)

	回答者数(人)			構成比(%)		
	①春	②秋	③春+秋	①春	②秋	③春+秋
修士1年	125	127	252	43.3	44.3	43.8
修士2・3年	96	98	196	33.9	34.1	34.0
博士後期	31	27	58	10.7	9.4	10.1
その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
専門職学位課程1年	26	27	53	9.0	9.4	9.2
専門職学位課程2年	8	8	16	2.8	2.8	2.8
専門職学位課程3年	1	0	1	0.3	0.0	0.2
専門職学位課程その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
全学年	289	287	576	100.0	100.0	100.0

b. 2.2 所属別回答者数

学部別回答者数とその構成比は表 2.2a のようになりました。最も構成比が高かったのは法学部で 12.4% (春+秋) でした。その他に 10% を超えたのは 3 学部(文学部、経済学部、理二学部) がありました。なお現代福祉学部、グローバル教育センター、通信教育部を除き、秋学期の回答者数は春学期よりも少なくなっています。

表 2.2a 学部別回答者数とその構成比(学部)

	回答者数(人)			構成比(%)		
	①春	②秋	③春+秋	①春	②秋	③春+秋
法学部	300	190	490	13.4	11.0	12.4
文学部	274	203	477	12.2	11.8	12.0
経済学部	274	249	516	12.2	14.0	13.0
社会学部	208	141	355	9.3	8.5	8.9
経営学部	179	132	311	8.0	7.7	7.8
国際文化学部	97	76	173	4.3	4.4	4.4
人間福祉学部	138	90	228	6.2	5.2	5.7
現代福祉学部	66	92	158	2.9	5.3	4.0
情報科学部	96	72	168	4.3	4.2	4.2
キャリアデザイン学部	59	61	120	4.4	3.5	4.0
デザイン工学部	51	73	124	2.3	4.2	3.1
理二学部	288	166	454	11.1	9.6	10.4
生命科学部	113	104	219	5.0	5.1	5.5
グローバル教育センター	26	16	42	1.2	0.9	1.1
グローバル教育センター	2	2	4	0.1	0.1	0.1
スポーツ健康学部	68	49	117	3.0	2.8	2.9
通信教育部	3	8	11	0.1	0.5	0.3
全学年	2242	1725	3967	100.0	100.0	100.0
平均	132	101	233			
標準偏差	95	68	161			
変動係数	0.72	0.67	0.69			




図 3.1.1 リアルタイム配型授業に対する満足度(学部)

次に大学院について見ると、こちらも春学期と秋学期で構成比に大きな違いはありませんでした。春学期および秋学期の合計で見ると 17.7% はそもそもリアルタイム配型型を受講していませんでした。そして 54.9% が「満足」、18.9% が「やや満足」と回答していますので、受講していない回答者を除くと 90% (= (54.9%+18.9%) / (100%-17.7%)) が「満足」あるいは「やや満足」と回答していることになります。

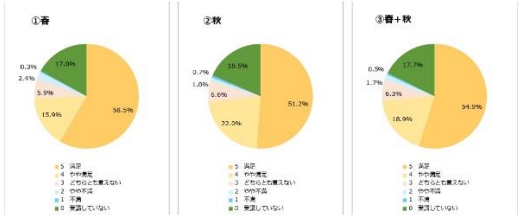


図 3.1.2 リアルタイム配型授業に対する満足度(大学院)

3.2 動画型(オンデマンド)による動画配信を中心とするもの

動画配信授業について、どの程度満足しているか、「満足」から「不満」までの5段階尺度に「受講していない」を合わせた6つの選択肢で尋ねました。その結果を円グラフで示したのが図 3.2.1(学部)及び図 3.2.2(研究科)です。また学部について見ると、春学期と秋学期で構成比に大きな違いはありませんでした。春学期および秋学期の合計で見ると 11.1% はそもそも動画配信授業を受講していませんでした。そして 51.9% が「満足」、23.5% が「やや満足」と回答

5. 巻末資料(各集計表)

2022年度「授業形態に関するアンケート」全学集計結果(9/9)

※PDFファイルの印刷・複製等についてはお問い合わせください。印刷・複製を禁ずる旨を記載しております。

Please do not use without our permission for any of the following classes (A to F).

© 法政大学教育開発支援機構(All rights reserved. 印刷・複製を禁ずる旨を記載しております。)


(A) "Real time instruction type" unless using such as Zoom (which is carried out by setting the day and time of the week)

学年	性別	専攻	学部										大学院									
			法学部	文学部	経済学部	社会学部	経営学部	国際文化学部	人間福祉学部	現代福祉学部	情報科学部	キャリアデザイン学部	デザイン工学部	理二学部	生命科学部	グローバル教育センター	スポーツ健康学部	通信教育部	全学年	平均	標準偏差	変動係数
合計	2,242	1,194	1,048	274	203	516	355	311	173	228	158	168	120	454	219	42	117	11	3,967	132	95	0.72
①春	1,143	593	550	133	95	239	161	141	80	102	68	61	51	233	116	22	58	1	2,018	101	68	0.67
②秋	1,099	601	498	171	108	277	194	170	93	71	90	107	66	221	103	95	59	0	1,949	121	79	0.69
③春+秋	2,242	1,194	1,048	304	203	516	355	311	173	228	158	168	117	454	219	42	117	1	3,967	222	147	0.69

(B) "On-demand type" unless using such as Zoom (which is carried out by setting the day and time of the week)

学年	性別	専攻	学部										大学院									
			法学部	文学部	経済学部	社会学部	経営学部	国際文化学部	人間福祉学部	現代福祉学部	情報科学部	キャリアデザイン学部	デザイン工学部	理二学部	生命科学部	グローバル教育センター	スポーツ健康学部	通信教育部	全学年	平均	標準偏差	変動係数
合計	2,242	1,194	1,048	274	203	516	355	311	173	228	158	168	120	454	219	42	117	11	3,967	132	95	0.72
①春	1,143	593	550	133	95	239	161	141	80	102	68	61	51	233	116	22	58	1	2,018	101	68	0.67
②秋	1,099	601	498	171	108	277	194	170	93	71	90	107	66	221	103	95	59	0	1,949	121	79	0.69
③春+秋	2,242	1,194	1,048	304	203	516	355	311	173	228	158	168	117	454	219	42	117	1	3,967	222	147	0.69

11 「オンライン授業に関する教員対象調査」集計結果報告書(抜粋)



「オンライン授業に関する教員対象調査」 集計結果報告書

2024年3月

発行：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

1. はじめに

教育開発支援機構 教育開発・学習支援センターでは、「オンライン授業に関する教員対象調査」を2023年6月1日(木)～6月15日(日)の期間に実施しました。調査対象者は2023年度授業担当教員で、調査方法は法政大学アンケートシステムを用いました。同調査ではオンライン授業を実施した経験の有無、オンライン授業形別の実施経験の有無、オンライン授業のよい点・悪い点を尋ね、最後にオンライン授業についての意見を自由記述で尋ねました。

2. 調査結果

2.1 回答者数、回答率

対象者は4,537人、回答者は379人であり、回答率は8.4%でした。400近いサンプルサイズのため一定の精度が確保されていますが、毎年教員の回答数が兼任講師よりも約100人少なく、その点で偏りがあります。

対象者数	4,537 (専任教員: 859) (兼任講師: 3,678)
回答者数	379 (専任教員: 149) (兼任講師: 230)
回答率	8.4% (専任教員: 17.3%) (兼任講師: 6.3%)

2.2 オンライン授業を実施した経験

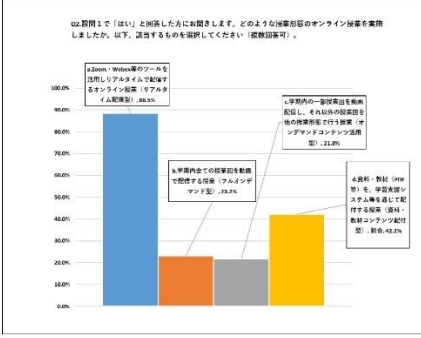
質問1はオンライン授業を実施した経験の有無を尋ねました(調査対象期間は2020～2022年であり、コロナ禍の時期)。コロナ禍においては対面授業を実施できなかった時期も含まれているため、ほとんど全ての回答者(94.7%)がオンライン授業の経験があると回答しました。

Q1. 本学にて2020～2022年度にオンライン授業を実施したことがありますか?	回答者数	回答率
a. はい	359	94.7%
b. いいえ	20	5.3%

2.3 オンライン授業形別の実施経験

質問2は実施経験のあるオンライン授業の形態を尋ねました(複数回答可)。実施経験が最も多かったのは「a.リアルタイム配信型」であり、約9割(88.5%)でした。次に「d.資料・教材コンテンツ配付型」が多く、約4割(42.2%)でした。「b.フルオンデマンド型」は約2割(23.2%)、「c.オンデマンドコンテンツ活用型」も約2割(21.8%)でした。

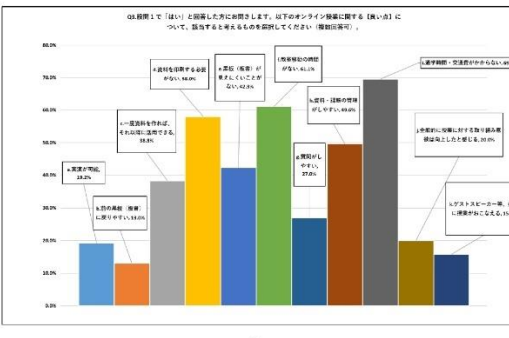
Q2. 質問1で「はい」と回答した方にお答えします。どのような授業形態のオンライン授業を実施しましたか。以下、該当するものを複数選択してください。(複数回答可)。	回答数	割合
a.リアルタイム配信型(リアルタイムで配信するオンライン授業(リアルタイム配信型))	317	88.5%
b.フルオンデマンド型(学習内容全ての授業内容を動画で配信する授業(フルオンデマンド型))	83	23.2%
c.オンデマンドコンテンツ活用型(学習内容の一部授業内容を動画配信し、それ以外の授業内容を他の授業形態で行う授業(オンデマンドコンテンツ活用型))	78	21.8%
d.資料・教材(PDF等)を、学習支援システム等を通じて配付する授業(資料・教材コンテンツ配付型)	151	42.2%
回答者数	359	



2.4 オンライン授業の長所

質問3はオンライン授業の長所を尋ねました(複数回答可)。最も回答が多かったのは「c. 通学時間・交通費がからない」であり約7割(69.6%)、次に多かったのが「f. 教習移動の時間がない」(61.1%)、「e. 資料を印刷する必要がない」(58.0%)でした。

Q3. 質問1で「はい」と回答した方にお答えします。以下のオンライン授業に関する「良い点」について、該当するものを複数選択してください。(複数回答可)。	回答数	割合
a. 実施が容易	68	19.2%
b. 新の授業(授業)に慣れやすい	46	13.0%
c. 通学時間・交通費がからない	136	69.6%
d. 資料を印刷する必要がない	204	58.0%
e. 授業(授業)が見えにくいことがない	150	42.3%
f. 教習移動の時間がない	217	61.1%
g. 履修がしやすい	96	27.0%
h. 履修・課題の管理がしやすい	176	49.6%
i. 通学距離・交通費がからない	247	69.6%
j. 学習のしやすさに対する取り組みが向上したと感じる	71	20.0%
k. アクセスがサーバー等、柔軟に増減が可能な点	56	15.8%
回答者数	359	



12 「生成AIツールに対する基本的考え方」の策定と公開



[TOP](#) > [TOPICS一覧](#) > 生成AIツールに対する基本的考え方

生成AIツールに対する基本的考え方

2023.06.23

生成AIツールに対する基本的考え方

法政大学教育開発支援機構
教育開発・学習支援センター

ChatGPTを始めとした生成AIツールが手軽に利用できる状況になっています。大学の学びにおいても生成AIツールが様々な側面で影響を与えつつあります。そこで、教育開発・学習支援センターとして、生成AIツールに対する基本的な考え方をここに示すことといたしました。

私たちは、常に生み出され続ける新しい技術を活用しながら、新たな学びの方法を修得してきました。法政大学憲章に謳う「自由を生き抜く実践知」は本学の教育研究を通じた社会的責任の表明で、この実現のため建学以来「自由と進歩」の精神を尊重してきました。この大学の理念に沿えば、学びの深化を促す方法や技術については基本的な態度として、積極的に受け止めるべきでしょう。これからの社会において、生成AIツールを使いこなすことが要請されるであろうことは想像に難くありません。使用倫理への配慮、それらの使用もたらすセキュリティや法的リスクといった危険性について十分に認識した上で、日常生活や学びのなかで賢明に活用していくことは重要であると考えます。

しかしながら、それらが学生の正確な知識の理解、知識を利活用するリテラシー、生涯自ら学ぶ態度の涵養を阻害する可能性があるのであれば、その範囲においては取り扱いに十分な注意を払うことが求められると考えます。場合によっては、大学の学びの本質を妨げるような、本来の学びのあり方を損なうような生成AIツールの利用については、厳しく制限することも必要となります。また、規制するだけでなく、生成AIツールの適切な利用を促すために、新しい技術への向き合い方や使い方に関して教育していくことも大学の使命であると考えます。